

2025年度 教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学科等の 名称	専任教員数						非常勤 教員	専任教員 一人あたりの在籍 学生数	備考
	学科長	専攻長	教員	計	基準数	うち 言語聴 覚士数			
保健医療学 部 リハビリ テーション 学科 言語聴覚学 専攻	0人	1人	7人	8人	6人	6人	14人	5.9人	
計	0人	1人	7人	8人	6人	6人	14人	—	

※教員の区分（学科長、主任教員等）は、各養成所の実情に応じて変更すること。

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	言語聴覚士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基礎	安全学	15	橋幸子 他	兼任
		教育原理	15	趙雪梅	兼任
		教育方法論	15	趙雪梅	兼任

基礎	付随科目の修得	統計学	15	塩見格一	専任
		情報科学	15	塩見格一	専任
		人間工学	15	塩見格一	専任
基礎	人間と生活	英語Ⅰ（社会と文化）	15	浅井純子	兼任
		英語Ⅱ（健康と医療）	15	Lorraine Sakka	兼任
		英語Ⅲ（総合演習）	15	浅井純子	兼任
		英会話（医療系英会話）	15	浅井純子	兼任
		スポーツ医学	15	林浩嗣	兼任
		スポーツ栄養学	8	鳴瀬碧	兼任
		体育Ⅰ	8	片岡雅彦	兼任
		体育Ⅱ	15	片岡雅彦	兼任
基礎	社会の理解	フレッシュヤーズセミナーⅠ	15	堀秀昭	兼任
		フレッシュヤーズセミナーⅡ	15	堀秀昭 他	専任・兼任
		人間関係論	15	青井利哉	兼任
		日本国憲法	15	横井正信	兼任
		コーチング論	15	長谷川優樹	兼任
基礎	言語聴覚療法の基盤	心理学	15	青井利哉	兼任
		生命倫理	15	高木祐介	兼任
専門基礎	人体のしくみ・疾病と治療	解剖学総論	15	飯野哲	兼任
		生理学	15	猪口徳一	兼任
		内科学Ⅰ	15	供田文宏	兼任
		内科学Ⅱ	15	供田文宏 他	兼任
		臨床神経学	15	佐藤万美子	兼任
		精神医学	15	小俣直人	兼任
		病理学	8	供田文宏	兼任
		リハビリテーション医学診断学	8	林浩嗣	兼任
		救急処置	15	菅野智也	兼任
		保健医療論	8	山口明夫	兼任
		トレーニング科学Ⅱ	15	菅野智也	兼任
		耳鼻咽喉科学	15	高橋昇	兼任
		形成外科学	8	西尾桂子 他	専任・兼任
		臨床歯科学	8	木下英荘	兼任

		発声発語系医学	8	保屋野健悟 他	専任
		神経系医学	15	林浩嗣	兼任
		聴覚系医学	8	高橋昇	兼任
専門基礎	心の働き	人間発達学	15	青井利哉 他	兼任
		臨床心理学	15	青井利哉	兼任
		学習・認知心理学	15	青井利哉	兼任
		心理測定法	8	青井利哉	兼任
		カウンセリング	8	山本桃花子	兼任
専門基礎	言語とコミュニケーション	言語学	15	西尾桂子 他	専任
		音声学	15	新谷純	専任
		音響学	15	塩見格一	専任
		言語発達学	8	西尾桂子 他	専任・兼任
		言語聴覚検査演習 I (小児)	15	西尾桂子 他	専任
		言語聴覚検査演習 II (成人)	15	岡本一宏 他	専任
専門基礎	社会保障・教育とリハビリテーション	リハビリテーション概論	8	堀秀昭	兼任
		チーム医療論	8	浅井智恵美	兼任
		社会保障制度	8	堀秀昭	兼任
専門	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害概論	15	保屋野健悟 他	専任
		言語聴覚障害診断学演習	15	保屋野健悟 他	専任
		言語聴覚評価演習	15	保屋野健悟 他	専任
		言語聴覚研究方法論	15	保屋野健悟 他	専任
		言語聴覚研究	45	保屋野健悟 他	専任
専門	言語聴覚療法管理学	言語聴覚臨床総論	15	保屋野健悟 他	専任
専門	失語・高次脳機能障害学	失語症学	15	高橋宣弘	専任
		高次脳機能障害学	15	高橋宣弘	専任
		失語症評価演習	30	新谷純 他	専任
		高次脳機能障害評価演習	15	岡本一宏 他	専任
		失語症治療学	15	高橋宣弘	専任
		高次脳機能障害治療学	8	高橋宣弘	専任
専門	言語発達障害学	言語発達障害学	15	西尾桂子 他	専任
		言語発達障害評価演習	15	村田里佳 他	専任・兼任
		言語発達障害治療学	15	西尾桂子 他	専任・兼任

		言語発達障害演習	15	西尾桂子 他	専任
専門	発声発語・摂食嚥下障害学	病理音声学	8	新谷純 他	専任
		発声発語障害治療学Ⅰ(小児)	15	西尾桂子 他	専任・兼任
		発声発語障害治療学Ⅱ(成人)	8	新谷純	専任
		発声発語障害治療学Ⅲ(音声・非流暢発話)	15	新谷純 他	専任・兼任
		摂食・嚥下障害学	15	保屋野健悟	専任
		発声発語評価演習	15	西尾桂子 他	専任・兼任
		摂食・嚥下評価演習	15	保屋野健悟	専任
		摂食・嚥下障害治療学	15	保屋野健悟 他	専任・兼任
専門	聴覚障害学	成人聴覚障害学	15	岡本一宏	専任
		聴覚障害評価演習	15	岡本一宏 他	専任
		小児聴覚障害学	15	岡本一宏 他	専任
		聴覚障害治療学	15	岡本一宏 他	専任
		聴覚補償学	15	岡本一宏	専任
専門	地域言語聴覚療法学	地域言語聴覚療法学	15	保屋野健悟 他	専任
		地域言語聴覚療法演習	15	保屋野健悟 他	専任
専門	臨床実習	臨床見学実習	45時間	保屋野健悟 他	専任
		臨床評価実習	135時間	保屋野健悟 他	専任
		臨床実習Ⅰ	225時間	保屋野健悟 他	専任
		臨床実習Ⅱ	360時間	保屋野健悟 他	専任

※適宜行を追加すること。

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4

	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学	1年後期	臨床見学実習	1年後期
言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督のもとで、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施	2年後期	臨床評価実習	2年後期
言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督のもとで、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施	3年後期	臨床実習Ⅰ	3年後期
臨床実習指導者の指導・監督のもとで指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは評価・治療の一部を実施	4年前期	臨床実習Ⅱ	4年前期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
------	------	----

○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めている。	4
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防におおむね努めている。	3
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に十分に努められていない。	2
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めていない。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	学長 山口明夫
組織の開催頻度	年6回程度
組織の取り組み内容	点検・評価項目および方法の設定ならびに変更 自己点検及び自己評価の実施 第三者評価実行委員会の設置と評価の実施 自己点検・評価報告書の作成 自己点検・評価結果の公表
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://www.fukui-hsu.ac.jp/about/data/）

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務会議
	委員構成等	学部長、リハビリテーション学科長（OT専攻長兼務）、看護学科長、PT専攻長、OT専攻長、教員3名、事務部長、事務員1名
	改善の仕組みの実際	毎年1月に作成したシラバスを適宜確認の上、授業科目担当者に修正依頼

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2021年6月にリハビリテーション教育評価機構の評価を受審し、適合の評価を受けている。 2023年3月に大学基準協会の大学基準に適合しているとの認定を頂いた。是正勧告1点、改善課題4点の指摘事項が付された毎年、自己点検・評価委員会で指摘事項の改善に向けた進捗状況が審議されており、2026年7月に改善報告書を提出予定である。
--